

武教全書口訣

撰用
將士
武者
分

二

武教全書圖	
部門	七一
番號	六
冊數	二八



武教全書。欲

撰將

將ヲエウヲトヨム類奉行ニスル人カ
 一善思ヤリソレヲ能エラセ用ル
 才也上將類明ニテモ其下ノ類本行
 抑智ナル才ハ上下ノ精通セズ不和
 本也治上代ハ政務ノ才ニ類非軍旅ニ
 是邊遠慮及リ司ルモノ才ハ主將ノ
 身ヲ治メテハ將ヲエラフ才第一ナリ





武教全書口訣

撰將

將ヲエラフトヨム頭奉行ニスル人カ

ラニ善悪アリソレヲ能エラセ用ル幾

ヲ云也主將聰明ニテモ其下ノ頭奉行

邪智ナル氏ハ上下ノ情通セズ不知ノ

本也治ル氏ハ政務ノ了ニ預リ軍旅ニ

進退應変ヲ司ルモノナリハ主將ノ

身ヲ治メテハ將ヲエラフ才第一ナリ

故ニ主本ノ次ニ是ヲ出ス故ニ三ツノ
采配ニ七人ヲ知ヲ第一ニ出セリ

○侍大將物頭物奉行ニ可申付人品之事

侍大將ハ一備ノ士頭物ハ足輕ノ頭物
奉行ハ長柄奉行此役ニ申付テ眞キ人
柄ヲ云此三役ハ備ニ欠テハ叶ハ又役
ニハ始ニ記ス

一 スクレテ勇者ニ生付タル侍之事

角持スクレテハ大勢ノ中ニテ人並ニイサ

一 皆リタルト云意ナリ此条ニカキラス次

ノ四ヶ条何レモ此スクレテト云字ヲ
付テ見ルヘシ世上ニ勇氣トイハハ
ヲハリ喧嘩口論ヲメ人ニ負ヌノ或ハ
カカワヨキトト云テ武ト心得或ハ
木火ニ入テ身ヲ損メモ悔ムナキ者
アリ如此ハ血氣ノ勇ニメ思慮スクナ
ク末ヲトケ又モノニテ將ノ勇ニハ非
又真ノ勇ト云モハ物ニ屈シタハ

一
スメ大勢ヲモヲソレス強カルヘキ氏
ハツヨク弱ナルヘキ氏ハヨハクカ、
ルヘキ氏ハカ、リ引ヘキ氏ハ引敗軍
ノモ臆セス危キニ臨テヒルム丁十ク
小耻ヲシノンテ大義ヲ忘レサル類是
ヲ将々勇ト云生得カヤウノ勇アル人
ヲ用ユヘシ勇ナケレハ大勢ヲ下知
ツカフヲナラヌ物ナリ
一
智惠才覚アル侍ノ事ハ

一
智惠ハ人ノ器量ナキ世ニ云利口衆明
ナト云テ余舌ヲ以人トナシ掠メ欺ク
類ニハアラヌ能人情ヲ通メ理非ヲ弁
ヘタトヘハ事ノ大キニナラヌ又先ニ此
事ハ末ニカヤウニナルト云様ナリ
一
其口サ也夕トヘハ大工者財木ヲ用ル
ニ曲直ヲ棄テ相應タリ云ツカフ如ク

其事多々ニ應メ取扱可能其宜キニ叶
如クサハクヲ云如此才智人ヲ用工
ヘシ

一 温和慈愛ノ侍ノ事

温和ハ柔順ノ意慈愛ハ仁ノ道慈悲ノ
ノ也然レ氏世ニ云慈悲善根トト云
類ニハ非ス只能人ノ飢寒ヲ感リ辛苦
ヲ同フメ年負去死ヲ聞テハ泪ヲ流シ
有功ノ者ノ子孫ヲ取立スハ匠士卒妻

一 子ヲ育テ奉生安スル如クイタス類ヒ

人ノ才以テ従フヤウナル者ヲ云如此
人ヲ用テハ

一 信實深キ侍之事

千字氏ニマコトヨムタトヘハ前方
力ク云タル詞アレハ今又カクスルハ
耻シキトト云類ノ可ハ至テ狭キ
也將人信實ト云ハ賞罰ノ定リタル
上ニ有テケ様ナルハ賞ス如此ク

者ヲハ罪スト号令ヲ成シテハ夕上へ
我カニクム人ニテモ切了レハ其時ヲ
失ハス約束ノ通ニ賞シ貴人親族ニテ
モ罪了レハ赦サス哥ヲ加ヘテスヘテ
下知法度ヲ変シカユル丁十少約束ノ
計千カハ又ヤウニスル人柄也如是ノ人
ハ士卒深ク心服シテウタカフ心十キ
モ人也如此ノ人ヲ用ユハ
一 忠節忠切ノ侍人事ヲ

主ノ爲ニハカルケ我カ忠ヲ尽ノ身ニ
不引カケ我事ノ如クスルヲ忠ト云十リ
節ハ竹ノフス也ホトヨキ下也竹ノ節
ハ火ニ焼テモ取クツレス其如ク取ノ
計アルハ私ヲ立ス主ノ爲ニ誠ヲ尽
ス可也忠切ハ右ノ通ニ志ヲハケミヒ
夕スヲ誠ヲ以奉公スレハ自然ト行ヒ
大上ニイサヲシカアラハレ其徳美外
ニ見ハルヤ如是人ヲ用ルノ第一也

前々勇智温信ノアハ人モ此忠節ノ志
十キ人ハ用ニ立ナル故ニク、リニ此
条ヲ出セリ然レハ前ノ四ヶ条ヘカケ
テ見ルヘシ

○侍大將物頭物奉行ニ不可申付人員ノ事

頭奉行ニ申付テ宜カラヌ人柄也是ハ
前ノ勇智温信忠ノ人柄ニ似テ見違ル
アハルニ事ニ出ス能ク心ヲ付

テ見ルヘシ

一 我意ヲ立血氣ノ勇アリテ勝負ノ善悪ヲ

不知侍ノ事ヲ

我心所叶ハサレハ君命ヲモ用ス我藝

ヲ高慢ニ我云ハカリヲ無理非道ニ

先立以テテ勝負ノヨシクハ勤余

セヌ突カスルハ人柄ノ事ナリ

一 邪智多ク輕薄ナル侍ノ事ハ跡出所ノ用

主人爲メ思ハス己カ爲メ肝要ト忠

義ノ者ヲ諛シトシサテ權門勢家ニ



論

一 弓断多ク氣弱ク人ニ力スル侍之事

一 是心ニフマヘルノ十キ人柄也何ノ用

ニモタ、又物也

一 武边場教アリトイヘ氏道ヲ知ス義ヲ正

サヌ不穿鑿十儿侍之事

一 武道武戔ノセニサクヲハセヌ只氣ツ

不ヨニマカセテ働ヲナス丁ハカリヲ心

一 存力久凡火柄ノ可也

一 邪欲深キ侍之事

我トルニシキ物ヲモ無理ニ取り賄賂

ニフケリテ義理ヲ忘レル人柄也如是

人者上ニアレハ下ノ風俗悪シクナリ

サテ大切ノ場ニテモ金銀ニ迷テ主ヲ

跡干スルモノ也

○家ニナクテ不叶三臣之事

一 小身ノ家ニハナクテモ大家ニハ必ナ

クテハ国治リ難シ

一 ツリ合ノ臣下之事

家ニ久シキ家老ノ勇智徳アリテ大将モ
親祖父ノ如ク崇敬シ玉フ臣下ノ事

ツリ合ハ權衡トカクハカリノ下也物
ヲカケルニ分銅ヲ以テツリ合如クニ
主將タル人我意カ起リ奢リトト出来
ル氏ハ諫言ヲナシ教導ノ不道ナラサ
ル如クスル臣也其人柄ハ本文ノ如シ
是ハナクテ叶ハサル家人ナリ

一 文道知辨之臣下之事

政道ヲ正シ国ヲ治メ私ナク遠キ慮アリ
テ知余謀略アル臣下之事

文道ハ禮樂国家ヲ治ルノ道也知ハ智
惠也余ハ辨舌也文道アリテモ智ナク
ハ曲直ヲ知士卒ヲ治ルノ下ハス
文智アリテモ余舌不直ハ理非善悪ヲ
詳ニ云分ルノ能ハス故ニ此ノ口セタ
ル臣ヲ用ユヘシ政道ヲ正シ国ヲ治ル

是則文道也万事私ノ爲ニセス至將下
万民ノ爲ニナル如クシ目前ノ丁ハカ
リニ非ス遠クオモシハカリ末々ノ丁
返ヲ能考テ国長久ニ治ル如ク知弁ア
リテ謀略ハ序段ニ云ルカ如ク何レモ
外へハカニハス午前ヲ能治ル丁ナリ
如此ノ臣下無テ叶ハサルナリ

一 武道正義ノ臣下之事

武士道正義ノ理ニ達シ城ヲ取陣ヲ敷備

一 ヲ立ル事理氏ニ相調ル臣下之責

武道ヲ悪ク心得レハ義ヲ失フ丁ナリ
故ニ正義ト云武ハ戈ヲ止ノ義ニテ乱
ヲ治ルノ道也武義ノ道理ニ通達シテ
家中ノ午本トナリ士卒モユレニ習フ
テ何レモ義ヲ尽ス如キ人人柄是義ヲ
又ニシクスル也サテ兵学ノ上ニ於テ
大城陣備ノ三ツヨリ大キナル丁ハナシ
其口サニ能熟シ道理ヲ會得メ事理合

一又スル臣也。是十クテ不叶也。

○大将十過之妄

一 人生付ニ能知アルウキニスキテ不
宜アヤマキヲ云十ヶ条ナルユヘニ十過
ト云此アヤニキ一ツニテモアレハ將
ニ公不被用也。敵ノ計ニ當ルモノナリ
然レハ又敵將ニ此人アラハ因之計ヲ
一 勇ニシテ死ヲ輕ニスル者アリ

一 勇氣ナルハヨクレハ勇スキテ死ヲ輕

ニスルハ誠ニ血氣ノ勇ニテ不
宜ナリ

一 將トナリ多勢下知スル者死ヲ輕ニス

ルハ其軍全カラス

一 急ニシテ心速ナル者アリ

一 事ヲ急ニメ心ハシツカナル宜シ然ル

一 心速ナルハ思慮少クシテ事ヲシ

一 貪ソシテアヤニキアリテ宜シカラサル

一 十リ短慮ナル者ハ物ト急屈イタシ

マスクメ長久ニ持ヲ十ヲ又モノナリ
貪ニシテ利ヲ好ム者アリ

常人ノ上ニム甘ホル心ナキモノハ十

シ其心ヲ義ヲ以テヲサユルナ要ナリ

然ルニ欲フカク分ニスキテ利ヲムナ

ホリ好ムハ不直也アマリ利ヲ好ノハ

亦利ヲ見テ大利ヲ害スル可アル物也

仁ニシテ人ニ忌ヒサル者アリ不直ナリ

人ニ忌ヒサルハ人ヲコロスニ忌ヒス

ト云心ニ見ルヘ永仁ナル公ヲケレト

慈悲スキテ非義無道ナル者ヲモ成敗

ヲ加ヘス助ケ置類ハ出家婦人仁ニ

テ不直也

智ニシテ心ツタナキ者アリ

智恵アリテ是非ヲシルトイヘ凡心ツ

タナキ凡ハ物ニ決断ナク迷ヒアリ臆

氣アリテ諫ムヘキヲモ諫メス正スヘ

計キヲモタカササルニ不直ナリ

信ニヒテ人ヲ信スルヲ悦フ者アリ

信実ナル心ハ宜ケレモアニリ正直ス

キテ人ノ云フスルヲ何フニヨラスヨ

キト思フハ不直也人詐術ニヲ入也

廉潔ニシテ人ヲ愛セサル者アリ

廉直ニメ心ノイガキヨキハ宜シケレ

モケツ白スキテ人ヲ愛シイツクシム

心ナク歩メテモ咎ノ人ヲ殺スナラ

モウレモへサルハ不直也人心服セサル

モメ也ニ云テトナリ是レテ人ノ心

知テ心ナク歩メテ人ヲ殺スナラ

理非善悪ヲヨク弁ヘ知テモ心ナク

シテ悪ト知テモ速ニ改メス善ト知テ

モ行ハ不延々ニシテユルカセニホク

久ク人モ也夕トハ今夜夜討ノ入ナラ

知テモ其備ヲナサズ取ノ類ナリ

剛氣ニシテ自カラ用モナリ

剛氣ナルハヨシトイハレズナリ氣ヲ

信用スキテ人ノ云フヲ用ヒス我干及フ

者ナシト心得ルハ不冝也

懦ニシテ人ニ任スル事ヲ悦フ者了リ

才智少ク心懦弱ニメ何事モ人次第ニ

シテ万事ヲホシカセテ置ク是大キナ

ルアヤニナ也

○六員亦者之事

味人少生質様々アリ其格ヲ六員六者ト

ナ品ニ定テイヘリ是ヲ以テ人ノ心

底ヲ代カリ知ハシテサレバ人ノ心置キ

一六員トイフハ静ナル人早キ人重キ人輕

キ人子ハキ人サクキ人

此六員ハ用ヒテ宜キ処ヨキ人柄ナリ

静ナルハ物ニ動轉セス万事ヲスヘル

アリテ能道理ニ叶フテソウナル

ナキ人ヲ云早キハ夕トヘハ急ニ取ヨ

リ切カケルニ飛違ヒ取納ル様ナル人

ヲ云是ハ心落付テ早キハ重キハナ

ハ少ニシメカリソノモ礼ヲ乱サス万事
ヲ能セシサクシ置キテ事ニ臨テア
十ケトキ人ヲ云軽キハ立居フルマ
小ニシメニシテ言語トトサノミシツカ
ラ子トモ少モ礼義ヲ乱サス道理ヲ
六ヘテカヨキ人ヲ云子ハキハ物毎ツ
テツシミテ卒尔ナルヲセス遠慮ヲ加
六ハヤフラスツヨナハヌマウニスル人
ヲ云サクキハ万事ヲセシサクシ置テ

事ニ臨テ驚キツカユルヲナクサラサ
ラトサハキニ滞リナキ人ヲ云以上六
只何レモ心ニ真实アリテ正シク能道
理ヲフマヘテアママルヲナキモノ也
一六者ト云ハ油断者トヨシナル者手ヲソ
キ者アハテ者埒ノアカサル者途方ナキ
者

此六者ハ六只ノ裏ニテ用ニ立ヌ人柄
也油断ハ万事ヲ口カニメフマヘ知ナ

キコクフナル人ヲ云是ヲ静ナル人ト
見違ル丁アリヒヨシナル者ハ物ノ道
理ヲ知スシテハヤキ也夕トヘハ立ニ
シキ礼ニテ立急クニシキ丁急クヤウ
ナル人ヲ云是ヲ早キ人ト見違ル丁ア
リキヲソキ者ハアニリ思慮ノイラサ
ルトヲモ子ヲノ吟味ヲ加ヘ内ニ道理
ナキ人ヲ云是ヲ重キ人ト見違ル丁ア
リアハテ者ハ卒忽ニテ早合点ヲシ事

ニ臨テウ只夕命ル人ヲ云是ヲ軽キ人
ト見違ル丁アリ持テアカナル者ハ道
理ニクラクメ万事不案内ナルトヘ物
毎サハカ又人ヲ云是子ハキ人ト見違
ル丁アリ途方ナキ者ハ化口ヲキ
一人ハ爲ニナルトハ少モ得云ス首尾不
正合ノ長吹トトスル人ヲ云是ヲサクキ
五人ト見違ル丁アリ以上六者右ノ通前
六段見違ル丁アルモトハ能

能其道理ヲセシサクシテ見ルノ要也

○五性之复

一 五性ト云ハ木火土金水也

是右ノ六只ノ人ヲ此五行ニ當テ評論
シタルモノ也故ニ此条ヲ出セリ別意
ナシ静ナル人ハ水ニ當ル早キ人ハ火
ニ當ル重キ人ハ土ニ當ル輕キ人ハ木
ニ當ル子ハキ人ハ金ニ當ルサクキ人
ハ五ツニ付テ何レヘモカクヨテ不入

其成ハ其香及野末トク其華也結ハ

○用士

石ニハ諸將ヲエラフヲ云此篇ニハ

又平士ヲエラヒ用ルヲ云人ハ

人ヲコ、口ムル作法之复ヤ

一 常々同夏ヲ幾度モ夕ツ子其人ノ答ル詞

ヲ聞其批判ヲ聞テ賢キ知ヲ可計知事

古語ニモ金火ヲ以コ、口ミ人ハ詞

ヲ以コ、口ムトイナリ夕トハハ難題



ノリトトヲ以テ士卒へ常々問タツ子
テ見ル也幾度モ問へハ心ニフマへル
ノ十キ者ハ恥々ニテ其答前後不合ス
ル也亦是非ヲ能落着メモ上ヲハカ
入リテ一度ニテハ詳ニ答サル者モアル
也故ニ幾度モ同変ヲ尋テ其人々ノ答
ル詞不習モ違ハスノ事理ヨク道ニ叶
ルヲカヲ聞其批判ハタクラヘ口カワ賢
キルハ其者ノ得方々々也其事ヲ論ス

ルニトカク我得方々々ノ事ヲヘ
タトヘテ其道理ヲ批判ナスモノナレ
ハ其詞批判ニテ人々ノ得方器量ハシ
レルモノ也縦ハ弓法ヲ得タル者ハ的
ヲ當ニト思フ所ハ的ヲハ子ヲハスノ
テ手前ヲ能正シ熟スルカ如シトイハシ
其二文学アル者ハ已ヲ修テ天下平也ト
云カ如シトイヒ兵法ニ賢キ者ハ謀略
ヲ以我ヲ守テ敵ノ不意ヲ待テ討之ハ

一 拳示利ヲ得ルカ如クナラシト云ノ

類ナリ

一 其言乗ヲ聞テ其才覺ヲ考ヘ其才覺ヲ見
テ其本トスル処ヲハカリ善惡ヲ定ムヘ
キ事兵法曰信耳而不信目者俗之弊也

詞ハ理才覺ハ口サシ詞イヒ方ニテ其
人々得方才覺ヲハカリ考ヘ才覺ヲ見
テハ其事ヲサハカセ口サニサセテ見
ル也本トスル処ヲハカルハ事ヲサハ

久 匠綴ハ文事アルモ本ハ文ヲ以テハ

キ武ニ賢キ者ハ武道ニテサハクノ類

也其処ヲ能勘弁シハカリテ此人ハ何

事侵ニ用ヒテヨキ此事ハ悪キト其善惡

ヲ見定ムヘシト也詞ハ分明ニ聞ヘテ

モ其口サハ不叶者アリ口上ハ不調法

兵テモ口サニハ能達シタル者アルナ

レハ其言行ヲハカリ試ムヘキナリ

兵法曰信耳而不信目石ノ通言行ニハ

相違ハルヲ了ルモノテ其事ヲハ
見スメ只口上吹ハカリヲ聞テ誠ト心
得テ間々事ヲアヤマツテ世俗ノ上ニ
有之事ニテ是俗人ノ上ノ弊ニテ不
十リ

一 視觀察

三字氏ニテ此トヨム視ハ歛ル上ヲ見
ル也觀ハ其ヨリ知ヲ心ヲ付テ考ヘミ
ル也察ハ其落付ルノ本ヲ推ハカリテ

見ル也夕トハハ素性ノ神南ノ三室ノ

山ヤ崩ルヲシ龍田ノ川ノ水ハ濁レリ

ト云哥此三字ニ叶ハリ先龍田川ニ臨

問テ見ルニ水濁リテ流ル是視ノミル也

何ニハニ水濁リタルカ川岸トクツ

與タルカト心ヲ付考ヘミルニ是觀ノ

一 八ニル也此川ハ神南ノ三室山ヨリ流レ

出ル水ナレハ定テカニコノ岸クツレ

明タルヲシト其源ヲハカキルニ是察ノ

ミル也此三字在道理ヲ以テ人々ヲ試
ムヘシトナリ

一 八ツノ試ル法之更

是太公カ八懲ノ詩ナリ是ヲ以テ人々
ヲ試ミ用テヨキ也

問之以言以觀其詳

夕トナシ難文ノ中ナリ又問カテ其
答道理ニ叶ヒ詳ニ云ふルカ分明ナラ
又カテ心ヲ付テ可見トナリ

窮之以辭以觀其變色

事ヲ問ヒ其答ニ因テ其美亦如此セハ

イカニト推カヘシテ問也其要ニ應メ

答ル知理ニ叶フカサシツカハルカテ

見ル也

與之間諜以觀其誠

間諜ナクシ目付也ヒソカニ人ヲ付

置テ其人ノ心ヲ知ル

明白顯問以觀其德



場中多人教ノ中十トニテアラハニ尙
テ其徳ヲミル也徳ハ得也其人ノ得方
也其事理ヲヨク會得セサレハ人中十
トニテハ臆氣出テ得云分サルモノ也
使之以財以觀其廉

財宝ヲヤリ或ハ捌セテ其仕方作廻廉
直ナルカ亦邪欲ニメ不義其力カミ
ル十リ之其答因ニ其美亦世世
試之以色以觀其貞可也

一、常慎ルカキ者モ色ニハ迷ヒフケル丁
アルモノ十レハ色欲ヲ以テ試弥貞心
ニメカタキカ亦ヲホレ乱ルカヲミル
十リ

告之以難以觀其勇

夕トヘハ難題ノキ危キ場へ只今向フ
ヘシトト、之付テ其人ノ勇ナルカラ
和ミル也勇氣アレハ是ヲ聞テイサミ悦
ヒ臆氣アル者ハヲソル、ケシキアラ

ハル也

醉之以酒以觀其態

常実負十儿者亡酒ニ正ヒテハ心乱シ

兼テ慎ム丁ヲ亡高言ノ上戸本性ヲア

ラハスト云下説ノ如ク十レハ酒ヲシ

イ正ハセテ其態ヲミル十リ熊ハクマ

ハサトヨム不礼不義ノヲルニヒノ丁

十リ

一八字柳揚褒貶擒縱與棄

主本十六字ハ大人教ニカ、七ハ大将

一 兼酒心得也此段ハ一人々々ノ上ヲ此ハ

字ノ道理ヲ以テコ、口ムル事也字彙

ハ同シ

一 山鷹鹿狩ヲ以テ外様ノ侍大小上下下知

ノ様子走り廻リヲ可知事

大将常山野ノ狩ヲナシ外様ノ侍ノ働

大身ノ者上夕ル人ノ我下人組子同心

十ト人下知ノ致ヤウ小身ノ者下夕

ル人身ノ走リ廻リ働ル達者ト云カヲ
見其得失ヲハカリ又余ヲ夫々ノ取作
何レモ理ニ叶フカ道ニタカフカヲ可
知也

○軍中へ可召連人員之事

軍中へ召連ヒテ不叶人柄ヲコ、ニア
ク出セル也

一 軍配者

八是天文者ノ下也款国へ向フ方角取日

出其外天災十トヲ可知夕メ也

忍

等勤者

兵糧或ハ陣屋ノハリ玉薬ホノ分配十

トイタサスル十リ

郷導

地取ノ案内者

水練

川ノ淺深或ハ瀬フ三十トイタサスル

欠者

歛方へノ昏通或ハ願書十トノ文ヲツ

クラシムル也

祐筆

常昏通感状ノ類十ト書シムル

醫者

本外馬醫氏ニ

出家

味方討死体者葬ラシム或ハ歛具ヲ送

リ来ル者ヲ受取也亦此方ヨリ送ル使

用工本外体者ハ夫々トテトテト

猿樂

虚説アル氏亦ハ味方ノ勞ヲハラフス為

十ト本陣ニテ一丁一管ノ氏ニ用工

大工

城ヲシン陣屋井構ホヲ作ラシム

鍛冶



鐵 釵 鎗 矢ノ根ノ類ニ或ハ釘木ヲツクラ

シム

細工

弓矢ノ類ニスヘテ武器ノ諸細工ヲ十

スモク也

金 塙

ホリノ水ヲ扱或ハ矢クラ十トヲホリ

クス、為十トヲ用テ此ニトシテハ

右ハ其大概ヲ示ラシム也 国用軍ニ

人々軍用國ニ入ニテ常入用人者公皆軍

正中ニモ入物ナリ 賈ハ五ノ十ハ大

一 科大科ノ其ノ人ノ以上ノ位ヲ授ルハ

△武者分

是役分ナリタトヘハ百万ノ軍勢ヲ一

備ニノ大將一人ノ司ルハ下知届カ

スツカハレサルモノ之故ニイクツニ

モ分テ夫々ノ頭奉行ヲ付員ヲ分テ是

ヲ使フ也此士大將以下諸役者何レモ



其人柄ヲ常工ラ七武功ノ士各得不得
ヲ考ヘテ相應々々ノ侵襲ヲ申付ヘシ
士ヲ試ル上ニテハ是又要ナルトユヘ
用士ノ次ニ此篇ヲ出セリ

○武者分員々之事

△品々ハ元ノ数ヶ条十リ

一 侍大将

五十騎以上ハ人数預ルヲ云夕トヘハ大
人教ヲ引率スルトイヘ常氏主人ヲ持タル

人ヲ公認メ士大将ト云也又云一方ノ將
夕ル人ヲ云氏不斗十五人長小武陣

騎馬ノ兵五十人以上人侍ヲ預ルヲ侍

大将ト云我手勢ヲ数百人持テヒキマ

ハス人ニテモ主人ヲ持タル人ヲハス

ヘテ侍大将ト云モノ也又一方ノ將夕

ル人トハ受午ノ大将ノ了ニ其款国ノ

界ニ兼テ居領スル將其方ノ先陣ヲツ

ト云ルヲ云此人ヲモ侍大将ト云也

一 足輕大將 馬上十二乃至四十八カリ
二 歩行足輕 十二十五百八カリ 差添預
ル侍ヲ云十リ

馬上トハ足輕与力ノ丁也 四十八カリ
トイハルハ五十騎預レハ士大將十リ
搦洲大將ト云ハ侍ヲ添テ預ルヲイフ
足輕ハ力ト預ルハ大將トハイハス
物頭ト云也 足輕二十五人ヲ小足輕ト
入云五十人ヲ中足輕ト云百人ヲ大足輕

士ト云也 馬上十二乃至四十八カリ 足輕十
五人ト云 五十百ト不半ハ其預ルハ人
ノ器量ニヨリテ相應ニ大ヲモ中小ヲ
モ預クハキトノ義也
一 組頭 是番頭之丁也
一 五十騎ノ侍ノ内其器ヲ工ラニテ申付
ル也 侍大將ハ進退分合ノ下知ヲ十ス
此番頭ハ諸士ノ番ノ差引交代勤急ノ
一 丁ヲ沙汰スル役十リ

一 武者奉行三人

コレスヘテ其軍人士率天下知之召仕
ノ役也

一 御旗奉行二人

是諸備ノ坐作進退ノ下知ヲ司ル

一 御持鎗奉行二人

是旌本ノ備ヲ全フ下知スル也

以上是ヲ弓矢ノ六奉行ト云也武功ノ勇

士ニアラスメハ勤カタクイ役也何レモ

采幣ヲ持ス兵天叶ス取所キハ各公カカリ

ノ只傳石此兵天叶ス取所キハ各公カカリ

右武者奉行二人御旗奉行二人御持鎗

奉行二人何レモ二人ツ合テ六人は

ヲ弓矢ノ六奉行ト云弓矢ハ武道ノ名

也二人ツハ非番ヲメツトム此役軍

中ノ當職ニテ其軍中ノ万彗諸沙汰ヲ

下知スル外大切ノ役ナリ然レハ武邊

ノ場数ヲヘテ能兵法ノ事理ニ通達シ

夕ハ勇士ナラサレハ用テレ又ナレ
ハ其人ヲ工ラフナ所要也イツレモ士
卒ヲ下知スルモノナレハ才配ヲ持ス
メ叶ハスユヘユルシテ持シムルナリ
功少キハ名ハカリトハ武功ノ場数ハ
ナクテモ賢才アリテ兵法ノ事理ニ達
シ家中モ其人ヲウヤマシ能士卒ノ下
知ラ司ルナラ得タル者ニハ此役ヲ申
未付也ナテ其人ニハ才配ヲハユルナス

時々上ヨリ賞メ下知ヲナサセ功積リ
使テ後才配ヲユルシツカハス是ヲ名ハ
カト云也又右ノ通武功ハアニリコシ
ナクテモ大人數下知スル器量アルヲ
名ハカリ云

一 役長柄奉行

役長柄トイフハタトヘハ千石十本ト
云如クニ定テ知行ワリニ家中ヨリ役
目ニ長柄ヲ差出スヲ云也是ヲ支配ス

ル奉行ヲ付ル是ヲ役長柄奉行ト云也

一 捲旌奉行

夕トヘハ何某午ヘ何十本ト云如ク諸

午ヘ渡ス旌ヲ捲旗ト云是ヲ支配スル

役ナリ

是ハ六奉行トハ格別也但武功ノ侍ヲ撰

フヘシ

右ノ役長柄捲旌ノ奉行ハ前云云六奉

行トハ午カヒ夕ル也此役ニモ武功了

一 世ハ侍ヲ用テヨキ也

一 使武者ハ是ハ武邊場教少氏弓矢ノ正理

ニ徹シ勝負ノ善惡地形ノ利不利能心得

夕ル侍ヲ可申付事

使武者ハ使番ノ丁也戰場ニテハスヘ

テ侍ヲハ武者ト云此段ハ軍中ノ諸事

使番ヲ勤ルハ勿論先ハ物見ヲ勤ル也

合戦ノ勝負ハ物見ノ善惡ニヨルモノ

ナレハ尤大切ノ役也然レハ武邊ハ場

教アリテモ軍理ヲ弁ヘサル一己ノ侍
ハ用ラレサル也昏面ノ如ク武邊ノ功
ハ十クテモ弓矢ノ正理ニ徹シ兵法ノ
理ヲヨク會得メ如此ハ勝或ハ負ルト
其善惡ヲ辨弁シ其戦ヲトス場外此地
ハ味方ノ利アル或ハ十キ地ト云テラ
能ク心得カテシタル人ヲ正ラヒテ
申付ル也
一 步行武者 具足ヲ着タルヲハ步行輕平

夕リ武武者ト云也
武不个テ戦場ニテハ足輕中間ニ至ル迄
武者ト云也
一 徒膚武者 久シキ對陣ニセリ合アリテ
ヨキ武者肩十ト二手ヲ負テ其疵イニ夕
愈サルニ大合戦十ト有之取ハ頭奉行ニ
具足ヲ断リユルサレ出ルヲ云也
スヘテ武者タル者ハ戦場ハ具足ヲ
着スニハ出サレモノ也然ルニ昏面ノ

通ノ敗ヨキ武者有十トニ手ヲ負テハ
具足着ラレサル故ニ出テ戦ヲハイタ
サ又也大合戦トハ万人以上ノ戦ヲ云
コ、ニテハ敵味方ノ人数残ラヌ出テ
戦ヲ云也右ノ疵平愈セサルウキニ
一 戦コノ合戦アル敗ハ少ノ疵十トニテ
為陣屋ニハウラレ又ユヘニ頭奉行ニ
断リテ此ノ受テ具足ヲ着ヌ三出ル
是ヲスハ夕武者ト云ナリ

一 出法武者ハ具足ヲ差物ヲ差サルヲ出法
武者ト云也是其法一定也ナリ
是ハ無法者ノ下也戦国人敗節武功大
一 其主ニ間々有之者也戦場ニテハ具足ヲ
一 着差物ヲサスヘテ其家人法ニ従フ
一 答ナルニ我武功ニホコリテ法外我終
一 具十ス者ヲ云也其只一定セストハ具
一 足ヲ着テ差物ヲ差サルニハ限ラヌ或
一 ハ小具足ハカリニテ出或ハ差物ヲ用

ユレ氏其家ノ法ニ從ハス我存寄ノ差
物ヲサス類ヒスヘテ法ニハナレタ
者ヲ云也又是何レノ備ニモ入ラレ
ル故ニ一定セサルト云氏イヘリ

一 白菌者 中間小者夫嵐子ノ類ノ一度モ
臭足ヲ着タル者ヲ云ナリ

昔ハ能武者ハ力子ヲ付ル也
凡嵐子ツレ具足ヲ着サル者ヲ白菌ト云

出アヲ谷ト具合ハ至テ白キモハアヲ

夕見子ハ物ナカレ禁中ニテ白馬奉節會
又アヲ見合也千五ノ白鷹ヲアヲ
夕カト云カ如クハ

一 小荷駄奉行 是ハ大剛人侍大将本役也
尤人教持ニアヲサレ成サル也合戦十
キ取ハ大方ノ奉行ニテモ可也用捨心得
口傳アルヘシ

兵糧陣具ヲ小荷駄ニ付テ軍中へ運フ
是ニ奉行ヲ付ル是ヲ小荷駄奉行ト云

兵糧ヲ運送スル丁是軍中大切ナリ也
款ヨリハ是ヲ棄シ丁ヲ謀ルニハ此
奉行ハ大剛ノ侍大將ニ申付ルナリシ
力モ手勢ヲ数多持タル人ナラテハ勤
カタキ也然レハ合戦ノコレナキ敗ハ
款ノヲソレナキニハ大方ノ人柄ニテ
モ相スルナリ用捨心得ハ治乱ニテ心
得ナリ戦國ニテ諸方ニ款ナリ敗ハ右
ノヨクナリ大剛ノ人数持ヲ奉行ニ

一 日用ニハ也又治世ニハ一掃ナリテ攻
立時千人教持ヲ用ル氏ハ戦ヲナス人
数少クナリ意ニハナシハ此敗
ハ人数持ノ侍大將ヲ不用是心得ナリ
一 陣場奉行ニ作度奉行ニ普請奉行
陣場奉行ハ陣ヲ取場知ヲ見合スル役
也大将ヨリ一日先ニ行場知ヲ見立或
ハ此知本陣ニハ先陣ト左右前後ノ
陣知何レモ本ヲ守テ教應ノ便利ナリ

如ク見合セサテ作夏奉行ニ渡テ陣屋
ヲカケサスルナリ此奉行ニハ武功ノ
士大将ノ人教持テ用ルニ故ハ其礼テ
款ノ伏カニリナトヲサクリ拂之其場
礼ヲ取堅ル爲ナリ作夏奉行ハ右ノ場
礼ハ陣屋ヲカケサスルナリ見合沙汰
スル也普請奉行ハ柵モカリ或ハ土居
笠垣十トノ類ヲヨシテハサスル役也
一 目附横目ハ頭奉行其職ハ邪儀アル事ヲ

大将ニ替テ是ヲ正スヲ目付ト云目付ニ
邪アルヲ考ルヲ横目ト云警固目明ニ何
レモ同意也

目付横目ハ大将ヨリ諸年へ付ルナリ
邪美ハエコヒイキナリ諸年へ目付横
目ヲクハリテ其不足ノ礼ハ其恥ニ當
テ旗本ヨリ武功ノ士ヲ申付テツカハ
スヲ警固目明ト云是甲兵詞ナリスナ
ハナ警固ハ目付目明ハ横目ナリ或ハ

又其收宜二ヨリテ其手人物頭ノ類へ
警固目明ヲ兼役ニ申付ル丁モアル也

目付懸目ノ大目付ヨリ結末ノ目付
ノ同意也

目付ノ大目付ノ懸目ノ大目付ノ懸目
ノ懸目ノ懸目ノ懸目ノ懸目ノ懸目

大目付ノ懸目ノ懸目ノ懸目ノ懸目
ノ懸目ノ懸目ノ懸目ノ懸目ノ懸目

